

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、昨日（1日）から本日（2日）07 時までに爆発的噴火が 8 回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が 5 合目（昭和火口より 500m から 800m）まで達しました。

このため、桜島の噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、本日（2日）09 時 30 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げました。

桜島の噴火活動は活発化する恐れがあり、昭和火口及び南岳山頂火口から 2 km 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006 年 6 月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

○活動概況

・噴煙活動の状況（表 1、図 1～3）

昭和火口では、昨日（1日）から本日（2日）17 時までに噴火¹⁾が 15 回発生し、その内 9 回が爆発的噴火²⁾でした。これらの爆発的噴火に伴い、弾道を描いて飛散する大きな噴石が 5 合目（昭和火口より 500m から 800m）に達し、噴煙の最高高度は 2 日 02 時 00 分の爆発で火口縁上 2200 m でした。

昭和火口で爆発的噴火が発生したのは昨年 7 月 28 日以来です。

・地震及び微動の発生状況（図 3）

火山性地震及び火山性微動は、少ない状況が続いています。

・昭和火口の状況（図 4）

本日（2日）、九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、昭和火口の形状及び周辺の状況に特段の変化はありませんでした。

- 1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが 1,000m 以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 2) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ
(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ
(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>) で閲覧することができます。

表 1 桜島 2 月 1 日～2 日にかけて発生した昭和火口の爆発的噴火

日 時	噴煙高 (m)	噴石 (合目)	火砕流
2009 年 2 月 1 日	11 時 10 分	700	なし
	17 時 17 分	1400	7
	18 時 35 分	1200	5
	19 時 57 分	1200	5
	20 時 22 分	1000	6
2009 年 2 月 2 日	02 時 00 分	2200	5
	04 時 57 分	1200	6
	06 時 26 分	1400	5
	11 時 09 分	1400	不明



図 1 桜島 2 月 2 日 14 時 26 分の噴火 (有村展望所より撮影)
噴煙は 1300m まで上昇し、南東へ流れました



図2 桜島 2月2日02時00分の爆発

- ・弾道を描いて飛散する大きな噴石は5合目（昭和火口から水平距離で概ね 500~800m）まで達しました。
 - ・噴煙は、高さ 2,200mまで上がりました。
- *垂水（気象庁）の高感度カメラによる

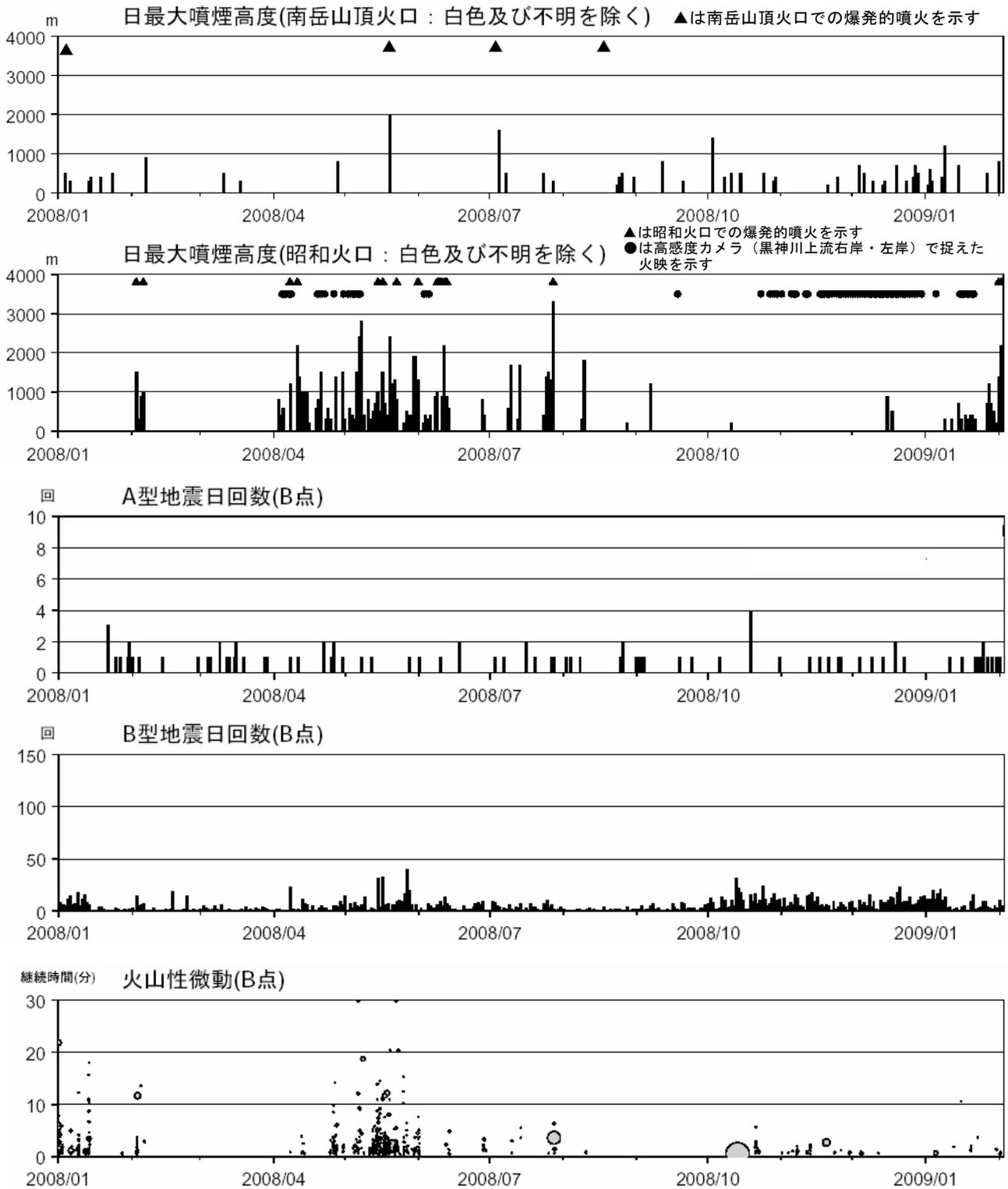


図 3 桜島 火山活動経過図 (2008 年 1 月 1 日~2009 年 2 月 2 日(10 時現在))



図 4 桜島 上空（南方向）からの観測（2月2日、九州地方整備局の協力による）
桜島昭和火口内は噴煙のため確認できませんでしたが、周辺の状態に特段の変化はありませんでした。